

授業科目 疫学基礎	科目概要・形式 2単位30時間(16コマ) 講義科目	配当年次 博士前期1年次 前期開講	オンライン参加 <input type="checkbox"/> 可・不可
科目責任者	松村 健太		
担当者	松村 健太、吉池 信男		
1. 科目のねらい・目標 疫学の基礎、すなわち、集団の健康状態や疾病の背景となる因子を探索・把握し、次に、予防・悪化防止のための対策（介入）を行い、さらに、その結果を評価する手法と考え方を習得します。 受講者が自分の研究を実施し論文にまとめる際、疫学研究方法を適切に利用できることを目標とします。			
2. 授業計画・内容 (松村) 第1～8回 1～2) 疫学入門：曝露と疾病、疫学指標、相対危険と寄与危険、疫学的研究方法、誤差、バイアス、スクリーニングなど) 3～5) 統計的因果推論：ランダム化比較試験（RCT）と条件付き交換可能性、観察研究における関連と因果、交絡因子と中間変数、交絡の抑制（標準化、調整、逆確率重み付け、傾向スコア・マッチング） 6) その他：欠損値の扱い、E-value、2つの交互作用、媒介分析など 7～8) 模擬データを用いたデータ解析 (吉池) 第9～16回 9～10) 疫学に係わる英語表現や専門用語に慣れるように、基礎的な英文テキストを講読 11～13) 具体的な研究（横断研究、生態学的研究、コホート研究、RCT、メタアナリシス等）の論文を例に、各研究の疫学手法、指標、統計処理、結果の解釈などについてグループで学ぶ。【日本語論文】 14～16) 同【英語論文】			
3. 教科書、参考書			
<教科書> Basic epidemiology 2nd edition, WHO 2012 https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/43541/9241547073_eng.pdf <参考書> 日本疫学会：はじめて学ぶやさしい疫学(改訂第4版) 日本疫学会標準テキスト. 南江堂, 2024 その他、授業中に随時紹介します			
4. 成績評価方法 提出課題及びプレゼン（80%）、授業・グループワークへの参加（20%）			
5. 受講要件 特になし。ただし、授業中に簡単なデータ解析を行うため、手元に統計ソフト（R、SPSS、EZR等）及び表計算ソフト（Excel等）の実行環境があることが望ましいです。			
6. 社会人学生に対する配慮 双方向型の完全オンライン授業、あるいは対面とオンラインを組み合わせたハイフレックス型で授業を行います。また、時間の有効活用を図るために、一部オンデマンドの受講やWebexスペースを活用した授業を予定しています。			
7. その他 「疫学」は人に関わる様々な事象を科学的に捉えるために重要な基盤となります。公衆衛生や量的研究ではない分野の受講生においても、積極的・主体的に学んでいただきたいと思います。もし、今回初めて学ぶ場合は、初回の講義までに、参考書に指定している日本疫学会発行の「はじめて学ぶやさしい疫学」を一通り読んできて下さい。			